

# ふるさとの歩み

第11回

～成田市をつくった町と村～

「ふるさとの歩み」では、「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」の刊行に合わせ、現在の成田市を構成する旧町村の歴史を紹介します。同書は、市立図書館と市役所1階行政資料室で頒布(価格=2,500円)しています。

※「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」についてくわしくは市立図書館(☎27-4646)へ。

## 大栄町②

## 町民の熱意によりよみがえった郷土芸能

### 町の設立

大栄町は昭和30(1955)年、町村合併促進法により大須賀村と昭栄村が合併することで成立しました。当時の人口は11,954人、戸数は2,007戸で、初代町長には佐藤重郎氏が就任。町役場は翌年2月、伊能に新築されましたが、昭和46(1971)年6月、松子に新庁舎(現在の栄支所)が建設されています。

### 新たな町づくり

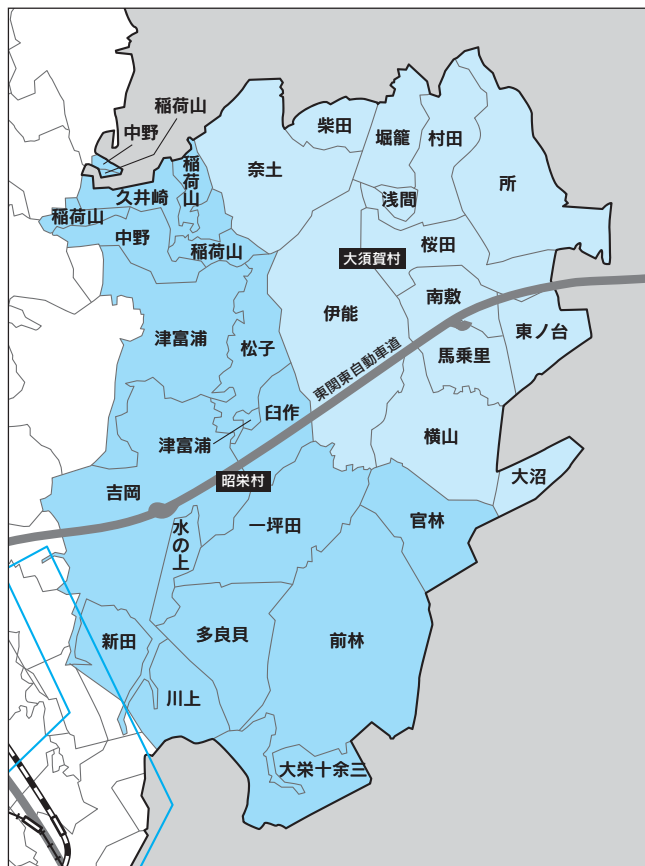
昭和53(1978)年の空港開港・昭和60(1985)年の東関東自動車道開通・大栄工業団地建設などにより大きく生活環境が変わったため、町は昭和60(1985)年に「大栄町基本構想」を策定しました。農業では、特にサツマイモの栽培が年々拡大し、昭和58(1983)年には、県内市町村中で収穫量が1位となり、昭和59(1984)年には県全体の生産量の12.8%を占めるに至っています。また、医療面では、町営の東部診療所(桜田)と西部診療所(吉岡)の建て替えが行われました。その後、町は、東部診療所を閉所し、西部診療所を国保大栄診療所と改めて、医療体制の整備充実を図っています。

### 復活を願う声に答えて

市の無形民俗文化財に指定されている伊能歌舞伎は、大須賀大神の例大祭の奉納芝居として、元禄時代から続く郷土芸能。娯楽の多様化による人気の低迷、火災による衣装の消失などにより、昭和40(1965)年の公演を最後にその上演は途絶え、文化財の指定も解除されました。しかし、復活を願う町民の声が多数寄せられ、平成10(1998)年に地元の有志が「伊能歌舞伎保存会」を結成。翌年、34年ぶりの復活公演が行われました。伊能歌舞伎は現在も、毎年11月に開催される定期公演をはじめ、さまざまな機会でも上演され、市内外から大勢のファンが観覧に訪れています。



大栄町役場(「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」から)



昨年の「全国地芝居サミット」で披露された、絵本太功記十段目「尼崎閑居の場」

### 編集後記

今年度も公民館では数々の教室・講座を主催。本紙でも毎年幾つかを取材して、表紙やトピックスで紹介しています。デジタルカメラのファインダー越しに記者の目に映るのは、真剣に取り組む姿だったり、楽しさいっぱい笑顔だったり…。それらのどれもが絵になる格好の被写体です。今年も「広報なりた」の黄色い腕章を付けてカメラを持ったスタッフの姿を見掛けたらご協力をお願いします。

平成24年4月15日号 No.1217

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>